

## 5 「技」分科会 要旨

San-En-Nanshin Summit 2011 in Ensyu

「技」分科会では、「持続発展的な産業集積の形成」をテーマに、「三遠南信発！産業イノベーション」の報告などを踏まえて、意見交換がなされた。

コーディネーター	株式会社サイエンス・クリエイト	代表取締役専務	中野 和久
報告者	浜松市産業部	部長	安形 秀幸
行政	豊川市	市長	山脇 実
	喬木村	村長	大平 利次
経済	豊橋商工会議所	会頭	吉川 一弘
	田原市商工会	会長	山田 俊郎
	新城市商工会	会長	本多 克弘
	浜松商工会議所	会頭	御室 健一郎
	磐田商工会議所	会頭	伊藤 卓治
	浅羽町商工会	会長	大石 重樹
住民	東三河市民連携委員会	委員長	原田 敏之

(敬称略)

### ■はじめに

ただいまから、「技」の分科会を開会いたします。この分科会の運営につきましては、コーディネーターを中野和久、株式会社サイエンス・クリエイト代表取締役専務をお願いして進めてまいりたいと思います。

### コーディネーター

株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏



本日の予定ですが、最初に「技」の政策

に関する重点プロジェクトをおさらいしまして、次に、浜松市産業部の安形部長から「三遠南信発！産業イノベーション」についてご報告いただきます。続きまして、三遠南信地域連携ビジョンでは、23年度までの4カ年間で第1期と位置づけておりまして、これまでの重点プロジェクトや推進体制について検証していただきます。また、第2期において、優先的に推進する事業等についてご意見をいただきたいと思ひます。

それでは、最初に「技」の政策における重点プロジェクトのおさらいをしたいと思います。

1点目は、三遠南信ビジネスのマッチングの推進です。これは商工会議所、商工会や金融機関の協力によりまして、三遠南信地域での企業間の交流を深めて新規ビジネスの創出を支援する取り組みです。

2点目は、国内外に向けた人材、企業誘致活動の促進です。これは、三遠南信の知

名度を高めるための地域プロモーションのため、一体的な人材、企業の誘致を進める考え方です。

3点目は、特色ある産業クラスター拠点づくりと、県境を越えた事業連携です。農工商連携を中心に、三遠南信の特徴的な産業クラスターを進める考え方です。

最後に4点目ですが、三遠南信地域の大学フォーラムの設置です。三遠南信地域には16の大学と各種研究機関があります。これらの交流連携の機会を創設しまして、将来には県境を越えた大学等の連携へと誘導する考え方です。

それでは、「三遠南信発！産業イノベーション」について、浜松市産業部長の安形秀幸様よりご報告いただきます。

## ■ 報告

### 「三遠南信発！産業イノベーション」 浜松市 安形産業部長

皆様、こんにちは。ようこそ、浜松へお越しいただきましてありがとうございます。

私は浜松市役所産業部長の安形と申します。事例報告ということでご報告をさせていただきます。

最初に、今日のご報告の一番のポイントとしては、今、中野さんからお話がございましたけれども、重点プロジェクト4項目の中の3番目、特徴ある産業クラスター拠点づくりと県境を越えた事業連携、ここを中心に事例報告させていただきます。

その前に、実は三遠南信地域連携ビジョンの目的の一つとして、こういうプロジェクトをどういう目的でやるのかということです。ここには書いてありませんが、冊子には記載がございますけれども、昨今の経済活動のグローバル化に対応して、やはり今後は県境を越えた産業競争力の強化を図っていくことが必要であるということで、この4つのプロジェクトを推進するという

ことです。

始めに「三遠南信発！産業イノベーション」という題が記載してございますけれども、この三遠南信地域には、これだけたくさんの方の企業や大学があるということです。三遠南信地域には様々なすばらしい企業がたくさんありますけれども、この地域全体で見ますと、少し資料が古いのですが、例えば工業製品の出荷高は約13兆円です。この13兆円という金額は、全国の都道府県の中の規模からいきますと、当時全国6位の兵庫県よりもこの三遠南信地域の合計額が大きい。これは五、六年前の話であり、最近は少し状況が変わっておりますが、このような規模があるということです。

農業につきましても約3,000億円を超える算出高ということで、これも都道府県と比較をいたしますと、熊本県が全国7位ですけれども、それよりも規模が大きいということで、五、六年前には実質的に第6位の規模となり、県に匹敵するような大きな経済規模を持っている地域だということです。昨今の厳しい経済環境下の中、新たな新技術とか新製品を生み出していく必要があるということで、大変厳しい状況であります。やはり過去にこれだけの企業を生み出した起業家の方もいらっしゃいますし、実績も上げている地域でございますので、今後さらに地域の競争力を高めていくポテンシャルは十分あるということがここからわかると思います。

次に、過去からの産業発展の系譜ですけれども、綿織物や製材、ここから現在の新農業、健康医療、航空宇宙、輸送用機械、精密機械、光産業、エレクトロニクス、楽器等々というような形でこの間推移をしています。資料集には遠州地域、東三河地域、南信州地域でどういうものが開発されたか、写真でご紹介しております。

この中には、ピアノはもちろんですけれ

ども木工機械とか民間旅客機、あるいは写真のフィルム、それから胃カメラ等々、現在我々の社会生活の中で使われている色々な製品で初めてこの地域で開発されたものも多々ございます。こうした先人の皆さんの時代を先取りした成長産業分野が、今までこの地域を発展につなげてきたということです。

しかしながら、先ほど申し上げましたように、こうした産業分野というのも非常に成熟化をしてきているということで、グローバル競争の中でこれからやはり新産業といいますか新成長産業といいますか、そういう創出が喫緊の課題であります。私どもは新たな新産業分野の基幹産業化を目指して、現在、行政、産業支援機関、大学、金融機関等、企業のサポートを行っているところです。

これは、今進めております三遠南信地域連携ビジョンの4つの重点プロジェクトのほかにも、三遠南信地域基本計画、産業クラスター、地域産学官共同研究拠点、知的クラスター、産学官連携拠点、それから地域イノベーション戦略推進地域といったこれだけの国の支援を受けているプロジェクトが今この地域で動いているということです。全ての詳細を説明する時間はありませんが、後ほどこの中の幾つかをご説明させていただきます。

国もこうした多くのプロジェクト事業を実施しているわけです。特に経済産業省と文部科学省が中心になりますが、以前はやはり国も各地域の産業振興ということで平均的な産業施策をずっと行ってきましたが、財政難ということで大分前から選択と集中ということで、各地域の平均的な支援ではなくて、地域ごとに意欲的で、なおかつ小さな地域だけではなくて広域的な地域をまとめた新たな産学官連携事業に対して国は優先的に支援をしますということに変わっ

てまいりました。それは、全く何もないところから新しいものをつくるのではなくて、既にある色々な基盤をもとにした強い産学官の連携体制、それから特色のある地域性を重視して国も採択をするということです。

地域としても、地域ごとにそれぞれ予算をつけて産業支援をしているわけですが、なかなか昨今厳しい状況ですので、地域の中でもやはり国のプロジェクトに積極的に参加して、地域の産業振興につなげていこうという動きがあります。

そういうことで、国と地域が政策的に一致するところがありまして、この三遠南信地域はこれに積極的に参加していこうということで、これだけのプロジェクト事業を今、推進をしているということです。まさに三遠南信地域連携ビジョンと国の政策の考え方が一致しているところだと我々は考えます。

それから次は、これは新産業の育成とかあるいは集積、そういう企業を集めていくことにつきましては、やはり今までどおりのやり方では難しいということで、今回国に出している色々なプロジェクト事業の中でそういう新産業が生まれて育って集まる、持続的なイノベーションといいますか、そういうプログラムを産学官の連携のもと、つくっていこうということがこの図です。一番上にクラスタープロジェクトということで、これが今実施をしているさらに個別の具体的なクラスターの事業ということです。左側のピラミッドですが、これは従来から大手企業を中心とした産業構造自体がこのような形になっているわけです。大企業中心に製品開発や技術などがそのピラミッドの中で生まれてきたということです。

ところが昨今、輸送、医療機器を中心にかなり輸出産業も非常に厳しい中で、新たな新産業を生み出すには新しい仕組みが必要だろうということで、色々な分野の新しい

い産業をつくり出していくためには、大企業ももちろんですけれども中小企業、それからベンチャー企業、大学、こういうところがネットワークを強化して新しい地域イノベーションのシステムをつくっていく必要があるということで、こういうものを具体的にどのようにつくっていくかということが光電子技術イノベーション創出拠点、産学官連携拠点です。今年の8月ですけれども、さらにそれを包含、規模を拡大したような浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションという大きな計画をつくりました。これも国の採択を受けていますが、全国で9地域だけということで非常に意欲的な計画であるとの評価をいただいているわけです。

それでは具体的に、新分野というのは何かということですが、飯田市を中心に航空宇宙の関係で技術開発が進んでいる輸送機器用の次世代技術の分野と、健康医療分野、東三河、豊橋市を中心に取り組んでいる新農業分野、それから浜松市を中心に今やっている光電子技術を活用した新しい技術開発である光エネルギー分野、というようなことで、このような仕組みの中でイノベーションが持続的に進んでいく仕組みをつくっていくかというものです。

それから、三遠南信地域全体のことになりますが、平成22年3月25日に国から認定をいただいた三遠南信地域基本計画というものでございます。これは静岡県、愛知県、長野県の各知事、それから浜松市、豊橋市、飯田市の各市長が申請し、参画機関として産学官の皆さんにも入っていただいているわけですが、国の予算を所管している財務大臣、医療関係の厚労大臣、新農業関連ということで農水大臣、それから経産大臣、国交大臣といった各官庁の大臣が同意者となっており、この計画については各省が連携して認定をいただいたという

ことです。計画の概要にもありますように、先ほど申し上げた分野をこれから基幹産業として育成していく取り組みをしていきます。これは、全国でも県境をまたぐ取り組みとしては2例目ということで、非常に注目をいただいている計画です。

それから、次に、今申し上げたような広域の基本計画の申請に基づきまして、三遠南信地域産業活性化協議会というものをつくっております。これは先ほど申し上げた3県と3市、それから3市の商工会議所、産業支援機関、サイエンス・クリエイト、飯伊地域地場産業振興センター、テクノポリス推進機構というような全部で12機関によってつくられた組織であり、今後具体的にどのように事業をやっていくか検討しているところです。まず国の認定を取って、それから今度、国の助成もその中で出てくるものですから、地域としてこれからどのような事業に集中して推進するかということはこの全体で決めていくということです。現在、全部で539社の企業が参画をし、新分野の開拓とか研究開発等を実施しているところです。

それから、プロジェクトの一つ目のビジネスマッチングと関連しますけれども、最近、三遠南信地域におきまして実施しているビジネスマッチングの取り組みの例です。

これは、最初は信用金庫、商工会議所が主催をしておりますビジネスマッチングフェアです。三遠南信地域の先進企業の出展をいただいております。様々なビジネスの場、皆さんの出会いの場にもなり、色々なサポートもこの事業で行われており、商談も随分出てきているという状況です。

次に、ものづくりフェア2010です。これは東三河のほうで開催をいただいておりますけれども、これにも色々な企業が多く出展をされています。

他には、先週、オプトロニクスフェアと

いう光電子関連技術の展示会も行われました。

また、22日土曜日には、信金サミットが浜松で開催されました。三遠南信地域8信金の取引先を中心に物産展と地域おこしの事例発表等が行われ、このようなマッチングが行われております。

それから、地元や地域だけではなく、海外へのビジネス展開ということで、ドイツでの医療機器展、香港でのフードエキスポ、それからフランスでのエアショーということで、いずれも三遠南信地域の企業が参加をしているという状況です。

同様に、企業誘致・企業集積についてですが、企業集積をするには地域から新しい産業や企業を興していく育成していくということと、例えば成長産業分野の企業を誘致するというように外から企業を誘致する取り組みがあると思いますが、今後、こういうものにも共同して取り組んでいこうというものです。

次に、はままつ次世代環境車社会実験協議会ですが、これは昨年5月に浜松地域からスタートしました。次世代自動車の普及と産業化に向けた社会実験ということで、プラグインハイブリッドを浜松市、大学、産業支援機関、企業、こういうところにご協力いただいて実際に使って走っております。電動バイクも含めまして実証実験をして色々なデータをとっています。

これについては、今、第1期が終わりこれから第2期がスタートしますが、第2期からは東三河地域と南信州地域でもこの新しい車を走らせていただいて色々なデータをとり、地域や環境の変化に対応していこうということで、行政にもご了解をいただいているところでございます。

今後、企業あるいは自動車関連業界では、軽量化、電気化、情報化、それから大きなポイントですけれども蓄電池というような

ことをこの技術開発の重要テーマとしていきますので、ぜひこういう技術開発競争の中で地域の企業がどう参画していくかということ、これから皆さんで取り組んでいきたいと考えます。

次に、先ほど申し上げた4分野において実際開発されたものをご紹介します。

スズキの電気自動車。ヤマハ発動機とスズキの電動2輪。それから、バッテリーパックや光通信を活用した次世代交通安全情報通信。輸送機器の延長にございますけれども航空宇宙関連分野の部品の開発というようなものが成果として上がっています。

健康医療関連産業では、浜松医科大学のPET、浜松ホトニクスの手術ナビゲーションとかもう製品化になっているものもございます。

新農業は、東三河で随分進んでいますけれども、LEDを使った植物工場や計測器など新しい農家の事情にこたえるような機械とか、三ヶ日みかんを使ったペースト、これはサントリーとハイボールで契約をしているようですけれども、そういうものが出てきています。

光エネルギー産業につきましては、半導体レーザーやカメラといった部品や製品が開発されています。

それから、先ほどご紹介した計画の中の一つになりますが、今年の8月に文部科学省、経済産業省、農林水産省から、地域イノベーション戦略推進地域に指定されました。これは国際競争力強化地域ということで、海外から人、物、金を引きつける強力なポテンシャルを持った地域であり、計画をこれからも推進していくということで、国に認めていただいたということです。

これは東三河と浜松でこの計画をつくり、認定を受けているわけですが、最初の時点では大学と企業が集積する地域を中心として進めていくという形で申請を出し

ておりますが、当然ながらこれから三遠南信地域全体へこの成果を発揮させていき、広く地域の皆さん方と一緒に推進していくということで皆さんにも共通認識をいただいております。

実施主体機関としましては、浜松商工会議所、豊橋商工会議所ということで、大学、静岡県、愛知県を含めまして、あと特筆すべきは、この中に金融機関に入っております。静岡銀行、浜松信用金庫、遠州信用金庫、豊橋信用金庫ということで、産業支援では融資だけではなくて色々なアドバイスやマッチングということで、非常に多くの情報をたくさん持っていらっしゃいます。協議会もそれぞれの機関から派遣された人が事務局を構成して、具体的に事業開発部と国際広域情報展開部というようにそれぞれの部をつくってその中で事業を展開する予定になっております。

国際競争力強化地域の実現ということでございますけれども、これについても先ほど申し上げた事業の中にもその出口でございます、海外マーケットへの出口戦略の充実と実行ということがこの中に盛り込まれていますので、そのような意味で国際競争力強化地域ということですよ。

たくさんの様々な事業やプロジェクトがありまして、短時間では詳細までご説明できませんけれども、これだけ多くのプロジェクト、それから事業の採択を国から受けている地域というのではないと思います。全国の中でも注目を集めている地域だと思いますし、また、県境をまたいだ地域ということでほかにはない特色を持っています。ですから、行政はもちろん、産業支援機関、金融機関、商工会議所がさらなる連携を強化して、一番やらなくてはならないことは早く実績を積み上げていくことだと思います。実績を積み上げることにより、さらなる次への連携、それから融合の強化が生ま

れてくると思います。

今回は、10年ぐらい前から継続しているプロジェクトもありますけれども、昨年または今年採択を受けて新たに取り組んでいくプロジェクトについてもご紹介させていただきました。

以上でご報告とさせていただきます。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

かなり色々なものに取り組んでいますけれども、この10年の中で特に広域的に提案していかないとなかなか採択をされないというのが1点。それから、各省庁向け、例えば文科省向け、あるいは経産省向け、あるいは農水省向けというようにですね、それぞれ省庁によって力点が違うものですから、ずっとメンバーはそんなに変わっていませんけれども、表現の仕方とかそういうことで非常に三遠南信の場合は上手に国とやり合っ採択をされてきているというのがこの5年間の経過だったのではないかなと思います。

#### ■ 議論・意見交換

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

それでは、第1期重点プロジェクトの評価と、第2期にとりわけ重点的に推進する事業についてご意見をいただきたいと思います。重点プロジェクトというのは、三遠南信地域連携ビジョンに示したものでありまして、優先的に進める事業としたものであります。資料集の55ページから58ページに4つの重点プロジェクトの工程表を掲載してあります。これは、昨年8月のSENAの委員会で決定した工程表に、現在までの進行状況を記載したものであります。

それでは、皆様からそのプロジェクトの第1期における評価と今後事業を進めるに

当たりまして、とりわけ推進プロジェクト等においてご意見をいただきたいと思いません。

この「技」分科会の重点プロジェクトをもう一度おさらいしますと、一つは三遠南信ビジネスマッチングの推進、これは色々な形で開始されていますし、先週もオプトロニクス会議がこの地域で行われました。二つ目は、国内外に向けた人材企業誘致活動の促進です。それから、特色ある産業クラスター拠点づくりと県境を越えた事業連携ということですが、これは先ほど安形部長が言われましたように、工業という集積でいきますと13兆円もあります。それから、農業では3,000億円あります。農業の場合トップが田原市、4番目が浜松市、6番目が豊橋市でして、1番から6番の間にこの地域の都市が3都市入っているというのは非常にかわったというか特異な場所であるということをご理解いただければと思います。それから四つ目は、三遠南信地域の大学のフォーラムの設置。この4つがこの「技」分科会の重点プロジェクトだご理解いただき、まず地元商工会議所の御室会頭からその辺を踏まえたご意見をいただけたらと思います。

### 浜松商工会議所 御室会頭

それでは私の方から重点プロジェクトのうち三遠南信ビジネスマッチングの推進ということについて、少しお話をさせていただければと思います。先程の浜松市の安形部長さんからのご説明と若干重複すると思えますけれどもご容赦ください。

ビジネスマッチングというのは、4つのこの重点プロジェクトの中では大変具体的にイメージしやすいと思っております、実際の取り組みも比較的活発に進んでいるという印象を持っております。

手前みそになりますが、具体的な事例と

しては浜松商工会議所と、それから浜松信用金庫、そして遠州信用金庫が共同で開催するビジネスマッチングフェアがございませう。事業意欲が旺盛な地域中小企業の皆さんに販路拡大、あるいは受注確保などのビジネスチャンスをご提供するという目的で2007年からスタートをしたイベントでして、今年で5回目の開催となりました。今回の実績といたしましては、出展企業が全部で253社、来場者数が7,400名、フェア当日の商談成立件数は28件、試作見積もり依頼が211件ということで、一定の成果が出ているのではないかと考えております。中小企業におきましては、優れた技術、製品を持っていても、それをPRする機会が乏しい。あるいは、販路を開拓するための経営資源がないということが大きな課題になっておりますので、この課題を解決し、新産業の力を底上げする方法の一つとして、今後も積極的に取り組んでまいりたいと思っております。

ただ、現在当フェアへの出展企業は、基本的には浜松の企業の皆さんが中心です。浜松市産業展示館またはこのアクトシティ浜松の展示イベントホールのどちらかでやることとなりますが、いずれにしてもキャパシティが小さくて、今のところ250社ぐらいの収容しかできません。我々も本格的にやれば500社ぐらいの収容はできるだけ規模はつくれると思っておりますし、そうなりますと飯田や、豊橋の皆さんを初め、三遠南信のメンバーの皆さんにもご出展いただけるわけですが、会場のキャパシティの関係で今のところ規模的には課題があるのが現状です。

それからもう1点、ビジネス交流の取り組みといたしまして、平成20年から三遠南信地域の商工会議所の会員の皆様による合同人脈交流会を開催しております。主には名刺交換会のような形態となりますが、ご

参加の多くの皆さんから商工会議所会員の連帯感の中で今後のビジネス拡大につながる人脈が構築できたと、高い評価をいただいております。やはりビジネスの基本というのは、お互いの信頼関係の構築にあります。直接顔を合わせて互いに会話を交わすこと、これに勝る交流連携はないと思っております。たとえ非効率であっても、そうして確立された信頼関係こそが地域発展への礎となっていくと考えておりますので、我々会議所といたしましてはその泥臭い部分を支える存在として役割をしっかりと担っていきたい、そんな認識を持っております。

ビジネスマッチングについての具体的な発表としては、以上でございます。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

ビジネスマッチングは、合同でやっている場合もあれば、豊川では豊川信金が単独で行っていましたが、あれもコンパクトなマッチングだなというふうに見ましたけれども、色々な形でやっております。また、豊橋の場合ですと2年に1回合同しながらやっているというのもありますので、多分そういうのを重ねながら、今、御室会頭が言われましたように人の集積につながるのではないかなと思います。

続きまして、豊橋商工会議所会頭の吉川さんをお願いします。

#### 豊橋商工会議所 吉川会頭

それでは、私からは今現在地域の事業者の皆さん方と具体的に取り組んでいること、豊橋商工会議所が独自に考えていることを2点ばかりご紹介をさせていただきたいと思っております。

1点目は、新しい農業ということで植物工場の取り組みについてお話をさせていただきます。

豊橋市におきましては、平成18年に食農産業クラスター計画を策定いたしまして、その翌年にその推進母体となります食農産業クラスター推進協議会を設立させております。この協議会におきましては、食と農に関連いたしました多様な事業者が連携しまして商品や技術の開発を推進しているところです。

このような中におきまして、株式会社サイエンス・クリエイトと豊橋技術科学大学などが申請をいたしました植物工場の実証設備の整備事業が、経済産業省のイノベーション拠点立地支援事業の採択を受け、今後約8,000万円の補助金に自己資金を加えまして、太陽光を利用し、高い収穫量を実現するための植物工場を実現する制御技術等の確立を図っていく予定です。

本事業につきましては、食農産業クラスター推進協議会に参画をしております複数の事業者がコンソーシアムを組みまして、サイエンス・クリエイトや豊橋技術科学大学とともに活動をするにしております。豊橋商工会議所といたしましても豊橋市や愛知県などと一緒にしまして資金面、あるいは技術面での協力を行っていく方向で進めているところです。

次に2点目ですが、豊橋商工会議所が設置いたしました海外展開支援室の取り組みにつきましてお話をさせていただきたいと思っております。

国内市場の縮小から、新たな市場や取引先を海外に求める中小企業の皆様が増えていくことはご承知のことと思いますが、加えまして、現在の長引く円高がその動きをさらに強めるものではないかと考えております。

しかしながら、中小企業におきましてはノウハウや情報、人材の面におきまして多くの課題があります。そのために二の足を踏んでいる事例が多いのではないかと考え



ます。

こうした企業のニーズに対応するために、豊橋商工会議所といたしましては本年4月に海外展開支援室を開設し、最新情報の提供やセミナーの開催、また各種相談業務への対応などを行っています。様々なサポート企業や支援機関の協力を得ながら、個別相談あるいは問い合わせに対応いたしておりますけれども、会議所職員の経験が浅いために、豊橋商工会議所といたしましては取引先が本当に満足しているのかどうか、十分な事例やノウハウの蓄積を進めていく必要を感じているところです。そのために、三遠南信地域には海外で十分にわたり合っていけます高度な技術を持った中小企業の皆様方が多く存在しているわけですので、こうした企業の海外展開支援を行っているそのほかの商工会議所または商工会を広域的に組織化いたしまして、ノウハウの提供あるいは事例を共有することで地域企業のニーズに伝えていくことも一つの実践的な取り組みではないかと考えております。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

1番目の植物工場でございますけれども、実は豊橋、田原というのは施設園芸の日本のメッカでして100年の歴史があります。その施設園芸を農家に提供する企業というのは15社ありまして、この10年間で日本の農業に提供したシェアの6割が豊橋の企業です。そういう経緯があり、温室農業組合がありまして総合農業とは別に温室が独立しています。そのような地盤があるということで、植物工場の取り組みができたと考えます。

ただ、豊橋の場合は、太陽光型、自然光型のものがずっと主流ですので、人工光型LEDを使ったものというのは極めて遅れております。この部分は、浜松の企業のほ

うが3歩ぐらい先に行っております。今回、浜松でもそういうものを1個つくっていかうということですが、やはりこの地域のそういう技術というものをどういう形で形成するかということです。

先ほど海外の話もありましたけれども、海外にもそれを持っていくということで、現在2年目になりますが香港をターゲットにした調査を行っています。香港というのは700万人の人口ですがけれども農業はほとんどありません。ほとんどが輸入です。香港の農水省が去年の10月、日本の施設園芸あるいは植物工場を調査しました。その後、ぜひともやりたいという希望がありまして9月に一度調査をしましたがけれども、建て方はできますが実際の栽培ノウハウはありませんので、そこをどのように取り組むかということが課題になっています。

いずれにしても、施設園芸は一つのボックスになりますけれども、そのものの技術というのは、例えば技科大の技術を使ったりしながら工場製品をつくるがごとく植物をつくっていくと。ただ、植物は生きておりますのでそう簡単にはいかないところがノウハウです。その辺りは少し進んだ農家の方たちの技術が必要だと思っております。

農家の場合は300坪が一つの単位ですがけれども、その300坪の単位でいきますと1万2,000棟が豊橋、田原に建っております。ですから、そういうものをコントロールしているということでご理解いただければ、この植物工場を何故やらなくてはならないのかという背景がわかるのではないかと、ことを補足させていただきます。

次に、豊川市長、一言お願いします。

#### 豊川市 山脇市長

豊川市はご承知のように、東洋一と言われました豊川海軍工廠（こうしょう）があ

りまして、それが昭和20年8月7日の爆撃によって灰燼と化したわけです。長い間廃墟となっていたわけでありますが、東名高速道路の豊川インターチェンジができ、そしてこの海軍工廠（こうしょう）跡地に企業を誘致して、徐々に豊川市も元気になってきたという状況です。

その跡地の中に、新幹線の車両をつくっております日本車輛の工場があります。昨年、生産3,000両達成の記念式典が行われており、新幹線の基地という認識をしております。そしてコニカミノルタではプラネタリウムの優秀な技術を持っており、コニカミノルタに大変頑張ってもらっているという状況です。そして、ぜひ宣伝をしておきたいのは、バスケットボールのプロチームであります浜松・東三河フェニックスです。このチームは豊川市のオーエスジーがつくったチームを母体としており、現在bjリーグで大活躍しています。このオーエスジーは工具メーカーであり、タップでは世界一と言われております。

このように各企業に頑張ってもらってはおりますが、地域経済は大変厳しい状況でございますので、豊川市としても何とか企業誘致により発展していこうと取り組んでいます。平成18年から4年間で3回合併を行い、昨年の小坂井町との合併で宝飯郡4町との合併が完了しました。その中の御津臨海部に企業団地がありまして、一昨年、台風18号によって高潮被害を受けました。豊橋市でもコンテナが流されましたが、御津臨海部に立地している企業が大変不安を感じている状況であり、今年は東日本大震災がありましてさらに不安が大きなものとなってまいりました。そこで、御津臨海部の企業が集まり、災害に強い企業団地を目指して懇話会を設置し、色々な情報交換をしているという状況です。豊川市といたしましても防災対策を推進して、これからも

企業誘致を積極的に進めたいと思っております。

実は昨年新しく企業用地が御津臨海部にできたわけですがけれども、まだ1社も入っておりません。特に東日本大震災以後はもう全然話もないという状況ですので、この辺をしっかりと進めていかなければならないと思っております。

一方、内陸部にも企業用地の造成をこれから始めるということで、企業立地推進部という組織を立ち上げまして、企業誘致を進めていきたいと思っております。そのような中で、やはりインフラ整備が大切となってきます。この三遠南信サミットに参加しますと、リニアと三遠南信道路の整備促進は一生懸命やっているので納得できるわけですがけれども、実は豊川市や蒲郡市にいたしますと国道151号の整備を早くしていただきたいというのが東三河地域の願いです。また、国道23号の名豊バイパスも早期に整備完了すれば、東三河の物流はしっかりしたものとなります。特にこの三遠南信サミットに参加している皆さんにもよくご理解をいただいて、共に国に要望していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

先ほど豊川信用金庫のビジネス交流会の話がありました。今年で7回目でしたが、年々盛んになっておりまして、今回は8,000人の方に訪れていただき大盛況でありました。豊川市としましても、地域のビジネスマッチングにつながればと応援しているところです。

食に関してですが、中日本東海B-1グランプリin豊川を9月24、25日に開催いたしました。静岡、岐阜、三重、長野からB級ご当地グルメの出展をいただきまして大盛況のうちに終わりました。豊川市からは、いなり寿司を出展して宣伝しました。やはり豊川市の名物にしていきたいと思っております。

ところでは、昨年厚木で行われましたB-1グランプリでは、6位に入賞いたしました。それ以後テレビ取材を百回以上も受けました。テレビに取り上げられるのは大変いい効果があると思っておりますので、これからは宣伝をしていきたいと考えています。

最近、新城市商工会の本多プラスがテレビ番組の「カンブリア宮殿」にとりあげられました。世界のオンリーワンを目指しており素晴らしい企業だと本当に感心していたところですが、地域の仲間としてご指導をいただきながら豊川市も頑張りたいと思っています。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

「いなり寿司」の話が出ましたけれども、食農というのはそういう意味でのポテンシャルがあるということ豊川市長からもご提案いただきました。

本多プラスさんの話が出ましたので、新城市商工会から一言お願いいたします。

#### 新城市商工会 本多会長

隣に田原市商工会の山田会長も見えますが、大きな会社の社長で、共通しているところは2人ともたたき上げということなんです。

先ほど、浜松の会頭さんが言われた中で、イベントをやっても浜松の企業がほとんどだという話がありましたけれども、我々が東三河で話をするといつも嫌われるのですが、商工会長になっただけで浜松のやらまいか精神に学ばまいかって言い続けています。先輩には、余計なことを言うなと怒られましたけれども。浜松と豊橋の違いは何だと、最大の違いは、やらまいかをやめまいかなんですよ。これはどうしてかなと思います。浜松からは世界に冠たるビッ

グカンパニーが何社も生まれています。それにまつわる中小企業でも、独自の技術を持って世界に羽ばたいているという企業が何社かあるわけです。

というのは、私の兄が本多電子を自分で始めたのですが、本多電子は浜工の出身なんです。今の静大の工学部。高柳博士に学んで、アメリカの部品を使って豊橋で初めてテレビを作りました。喫茶店に備えていいお金になったそうですが、私どもの新城でも、15センチぐらいの小さなブラウン管のテレビを作ってくれました。

兄から色々な話を聞いていましたがどうして違うのかなと。豊橋が遅れたのは、やはり技術系大学がなかったからだと思いますが、兄が非常に尊敬していた神野さんが全部実現してくれました。技科大もそうです。サイエンス・クリエイトも財団もそうです。色々なことでやっぱり浜松に学べということ、遠州地方の人のやらまいか精神に。これはお祭りに現れるし、子どもの遊びでもそうですが、私は青年会議所時代から浜松の人たちに、本当に学ばさせていただきました。

もう一つは、私は古い話、少し気学を勉強してまして、新城のまちおこしをした人はみんな遠州から来た人なんです。方角がいいんですね。辰巳の方角といいまして、東南の方角なんです。新城からお嫁さんをもらうのもっといいと思うんですけどもね。これは乾の方角で、大変いい。だから、農業で世界一とはいうものの、ものづくりについてはやはり浜松に学ぶと。

そこで、何かおもしろいものがないかという中で、軽トラ市という話を聞いて、それはおもしろい、見に行こうということになりました。まず何でもいいですから、事業でもそうですけれどもうまくやっているところのまねすればいいんですよ。うまくやっている地方のまねすればいいわけです。

から、全国の中でこの三遠南信というのは非常にうまくやっている地域だと思いますから、いずれ道州制の時代が来るでしょうし、こういう震災を受けた後にぜひそれは実現しなくてはならないと思います。

軽トラ市は、衰退の一途である商工会の商業部を何とかしたいという中で、簡単に始められるしおもしろそうだとすることで、盛岡市の隣の雫石町や九州の川南町に行きました。それでこれは非常におもしろいと思いましたが、道路に車を駐車するというのが大変難儀でした。また、スポンサーに、お金がないものですから、スズキ自動車の会長にスポンサーになってもらいたいと言ったら、軽トラ市って何だって言うので、まあ一度見に来てくださいと言って見に来ていただきました。そして、一目見てこれはおもしろい、これだこれだと言って、全国で講演する中で新城に行けといわれたんですよ。そうしたら、今、毎月第4日曜日に開いていますが、昨日は100人ぐらい来ました。観光バスでも来るようになりましてね。おかげで、今、新城市商工会は大変潤っています。2時間ぐらいの間に20万から30万の売り上げをあげる人もいますし、行列が並ぶぐらいになりました。

それと、新城や東三河にとってこれはチャンスなんです、大村知事が東三河県庁なんていうのを突然出してきまして、こんなチャンスないわけですから、そうすればさらに三遠南信問題もやりやすくなるだろうと思います。

そして、リニアの駅が飯田にできると新城は、東京から帰るにはリニアで飯田でおりに来れば1時間で来ますから2時間かからずに帰ってこられる。それと、伊那谷は本当に空気が澄んで、地震も災害も少ないところということですし、人柄も良く、長野県は昔から教育県って有名です。だから、私も次の立地条件として伊那谷を皆さんに

勧めたいと思います。浜松の技術で伊那谷のいい人を使う。そうすると、東三河はちょっと置いてけぼりになってしまうかもしれません。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

山田会長、田原市は空いた土地をたくさん持っているというので、この間はメガソーラーが出てきましたけれども、そういうことを含めて、一言お願いいたします。

#### 田原市商工会 山田会長

農業関係で今まで全国一ということで誇ってきましたけれども、今内容的にはかなり構造変化が起こっております。観葉植物関係も今安くなっており、また、キャベツなどといった露地に戻るかというような動きもあったり、非常に混乱をしているということだと思います。

そしてまた、田原の場合は農協が非常にリーダーシップを持っておりまして、今まで強力に指導してきたわけですが、ここに来てそういうものが少し弱くなったかなと感じています。いろいろな要素というものが出来まして、先ほどまとめていただいたような方向に進んでいくのではないかと考えております。

それから、様々な方法で企業誘致を行う中で、東京製鐵さんも出てまいりましたが、実際はインターネットで調べたということなのでこれには大きなショックを受けましたが、おかげさまで稼働が出てきました。ただ、まだフル稼働には大変ほど遠い状況でして、本来は20万トンという能力があるわけですが、4万トンとか5万トンぐらいで今スタートしているということです。

メガソーラーにつきましては、ようやく具体的な話になりました。三井石化が80ヘクタールの土地を持っておりまして、ここ

は岸壁も港湾計画の中に位置づけされている港として非常にいい土地でして、港の機能を持ったところが来てくれることが非常に望ましいと思っておりましてけれども、実際はあのような恒久施設的なものが来て、この10年ぐらいのサイクルの中で様子を見ていくのかなと思っています。地元としては、あくまで港の機能を残してほしいということで、岸壁の用地としての変更はしないというお願いもしております。

それから、私ども田原臨海に70社、1万5,000人ぐらいの方が働いているわけですが、先程豊川の市長さんが言いましたように、大変渋滞を起こします。豊橋の方で大分改良されたのでよくなってきましたが、まだ朝晩の渋滞は大変なものです。私どもは、トヨタの田原工場はもう永遠なものだと自信を持っておりました。なぜかという、最新鋭で一番規模的にも大きい、そしてまた港がついているんですよ。外航バースが3バース、内航バースが1バース。同時に船が着けるということはそんなになんないということで、これは大丈夫だと思っておりましたら、今回、東北に今度エンジン工場をつくるということで、九州工場と田原工場と東北の工場、この3工場の競争が始まりまして、今、田原工場の方も目の色が変わっております。

どういうことかという、部品の輸送効率をどうやって上げるかという問題がありまして、この辺は調達はできやすいけれども輸送が物すごい経費がかかるということで、最新の田原工場がつぶれるかもしれないという話が出てきております。3工場競争をして、それで製造ができないということになれば、これは外国に持っていくということで、田原工場といえどもそのような状況に来ているということです。

また、田原工場の場合は、アメリカの北米向けの重要な基地でして、北米向けの車

は全国から田原工場に輸送されます。輸送方法についてはトレーラー、それから内航船。1,000、2,000台ぐらい乗れる船が着きまして、そこで物流の拠点になっておまして、アメリカの金融不安の前は1カ月に12万台出ておりました。ちなみに、今ようやく5万から6万台ぐらいの台数がありますが、特に豊橋の輸出車の実績というのはトヨタが8割から9割なんですね。数字的には日本一、二と言いますけれども、その内容たるやトヨタのそこから出されるものだというのが実態です。

豊橋の港も小坂井からの23号が整備されれば、もう30分ちょっとくらいで来れるということで非常に輸送コストも下がりますし、昔、豊田市もどちらかという豊橋港のエリアに入っていたわけですが、湾岸ができることによって名古屋港に移されました。輸送の形態が向こうが中心になったということで非常に豊橋も影響を受けましたけれども、道の整備ができることで港の機能が全く変わってくるということになります。

港湾計画でも港周辺がよくても港に通ずる道が整備されなくてはだめではないかという指摘がありまして、港湾課でも同じ認識でおりますが、そういう整備が非常に遅れているということで、田原の場合は豊橋を通らないと外に出られないということがありまして、やはり道路の問題も豊橋としっかり話し合うことがこれから必要だと思っております。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

それでは、磐田商工会議所の伊藤さん。一言お願いします。

#### 磐田商工会議所 伊藤会頭

皆様がいろいろとお考えになっているこ

と、それから、特にこの三遠南信で議題にしていること、これはもう皆さん共通の問題であろうと思います。

今、このようにグローバリゼーションも進んで、そして少子高齢化になりまして、非常に国内の需要が減って、それで海外との距離が短くなって、こういうときにもう県境を越えてということはもう当然の話でありますし、また、力を一緒に合わせてやるというのも当然の話であります。

磐田商工会議所管内の産業構造は今まで四輪などの輸送機に非常に偏った部分がありました。そのお蔭でいい目にあってきた部分もありましたけれども、それを何とか新しい方向へ向けなきゃいけないということで新産業創造の起案を市の方にいたしまして、私どもも今、創造委員会から協議会をつくってやっているところですが、問題の一つはビジネスマッチング、それからもう一つはどういう新しいものをつくってあげばいいのかという点です。今我々が持っている技術にはどのようなものがあり、何が足りないのかということです。

特に、国内の需要に向けて新しい市場を開拓していくといいますか、新しい市場に向けた技に変更していくということと、それからやはり世界市場が非常に大きいですから、どうしても日本がものづくりでやっていくためには世界と競争せざるを得ない。そうすると、海外へ出て行かざるを得ないということが必ず出てくるわけです。

しかし、それだけでは済まない企業が国内にはあるわけで、その人たちはどうやって、価値を見い出して世の中のためになっていくかということになると、国内における便利、安全、安心、養老、それから子育てということに対してのサービス、そのためのいろいろなハードウェアも含めてやっていく必要があります。それから、縦割り行政の横通しをするような新しい形や、農

業の硬直化だとか、それから河川の問題、いろいろなことがまだまだ残っています。これも、やはりもう行政だとか民間だとか言っていられない状況にあって、ある意味では切羽詰まっているということであろうと思いますので、ますますこういう機会を利用していただけて皆様とご交流をお願いしながら、自分たちの身の回りも解決していかなければいけないと思っています。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

大平さん、お待たせしました。今まではどちらかというと平野部のことでしたが中山間地という立場でよろしくお願いいたします。

#### 喬木村 大平村長

それぞれの地区のお話をお聞きして、やはり南信州地域は2つの地域の皆さんとは当然立地条件が違うし、いろいろなものが同じというわけにはまいりませんが、当地といえ半生菓子ですとか、飯田といえ水引だとか、そういう面では今までもずっとつながってきたし、これからもそういう産業はまだまだ継続していくし伸びていく部門かなと改めて思っております。

飯田市、それから広域の中で地場産業センターを中心にしながら、いろいろな新しい産業を取り入れながら研究をして進めているようでもありますけれども、ものづくりの拠点というようなことでいろいろな産業が今伸びてきています。先ほどのソーラーや航空機産業など、本当に新しい部門で伸びてきているのが顕著に出てきているようでもあります。

私どもは山村の小さな村ではありますが、南信州ならではの自然と、そのような澄んだ環境がこれから生かされるのではないかと思います。リニアビジョンなどいろいろ

な計画を立てておりますが、これからがやはり正念場になってくると思っております。

また、新しい農業に関して言えば、果樹地帯が多いわけですが、特に市田柿がこのごろ全国的に非常に伸びてきています。今までは保存食であったわけですが、一つの商品、菓子というようなイメージに変わってきました。乾燥も天日乾燥でずっと続けて一ヶ月かかるわけですが、新しい農法や熱風を使った乾燥により10日から2週間で製品として出荷するという成功事例も出てきています。飯田、下伊那地方としても果樹産業としても、やはり一番伸びの高い市田柿というのを特産品化していくというのが今、後継者が少ない中でそういうものに仕事を課しながら進んでいくというのが一つ大きな流れではないかと思えます。

いずれにしても、企業体質的に見ればまだまだ2つの地域に比べれば弱い面もありますので、その辺が交通革命によって、新しい時代の地場産業の活性化につながっていくのではないかと考えているところです。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

何年か前に大分の平松知事が一村一品運動をやったときに調べたことがありますけれども、一村ごとに機械を全部調達していくんですね。そうして調達した機械というのは全部違う、一個一個違うんです。それも多分2分の1は国からとったと思うんですが、申請書も全部その会社がやってくれて、県内幾つかのところでは新しいものをつくってきたということを知っています。多分山の中は山の中の生き方があるんだろうなということです。

関連して、大石さん。遠州の中でどうやって生きていくかということで一言コメントをいただければと思います。

#### 浅羽町商工会 大石会長

私は海の方からということで、大平村長の方と全く様相を異にするところがあります。袋井市と合併しまして6年たちましたけれども、8万7,000人のうちの2万人というところの小さな商工会です。袋井を代表してお話を申し上げれば良いのですが、そちらのほうには精通していないところもありますので、私ども商工会が担当する部分のお話をさせていただきたいと思えます。

浅羽は、天龍製鋸さんのようなすばらしい企業等をお迎えして、産業的にも過去数十年発展をしてきました。ただ、私どもは今まで海を見るのと磐田や浜松の方を見るしか歴史的に視野がなかったところでありまして、それにより豊かな地域が開けたことも事実ですが、従来型の産業というのが主体でありました。

それから、農業面でも特化してフルーツの王様、日本一のメロンということも抱えております。バブル崩壊以降ずっと長きにわたってメロン栽培農家の方は経営的に苦しんでいることも事実です。有名でありましてもなかなか経営的には大変であり、新しい農業形成が今求められているのですが、やはり立地とか歴史の中でそういう革新的なものがなかなかつくり出していけないということも事実です。

そういう中で、昔から遠州織物の産地を担った一画でありまして、以前は商工会員500のうち150から180の会員が織り屋さんに関連でありましたが、今は確か8事業所ということで一番古い旧来型の繊維産業はないに等しい状態になっており、輸送機関係はそれぞれの旧来型の産業構造の中で生計を営んでおります。

私どもは工業面において新しい産業のあり方を目指していけないわけですが、この三遠南信の中で今までずっと担ってきた位置、事業所が多いわけですから、これから

もそのような形で、このサミットの中でいろいろな動きが起こり、また前に進んで行く中で一緒に歩んでいきたいと思っております。

最後になりますが、産業立地、企業立地という面で非常にダメージを生んでしまいました。先ほど高潮の被害のお話もお伺いしましたが、私どものほうは平均海拔2.5mという立地なものですから、地震、津波という問題がありまして、著名な昔の誘致企業さんの多くが海岸沿い、防潮堤のすぐ脇に立地しております。その企業の皆さんは、立派な経営をなされて、私どもの地域に本当に貢献してきてくださいましたが、これからどうするかということで非常に苦悩を抱えられております。それによって私どもの商工会エリアというのは、先行きがどうなるのかという非常に切迫した問題も抱えてきてしまったということもあります。

それから、他の分科会に参加されている御前崎の商工会長さんもそうですが、私どもも浜岡原発から20kmちょっとというエリアにございまして、これから30km指定の範囲に入るということでしょうが、その辺の不安感も抱えております。これからの新しい産業構造、それから皆さんとともに進んでくことを一番に目指していくわけですが、まずは安心した産業が維持できること、企業が立地できることですので、安心して営める立地を少し高台に確保するなど、今までどおり私どものエリアある企業、また中小零細企業含めて、将来共に営めるような環境づくりが最優先ではないかと考えています。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

今年の2月に産業観光ということで、袋井商工会議所の豊田会長ほか30名ぐらいで、豊川稲荷に来てお参りしたり、豊橋に戻っ

てきて食の産業クラスターの勉強をして、豊橋はカレーうどんが有名ですので昼間カレーうどんを食べて、その後、中堅工業を見学して帰られたというケースがありましたが、新しいものを吸収しようというところは多分どの地域にもあるんだなと思いましたが、最後、市民団体から原田さん、一言お願いします。

#### 東三河市民連携委員会 原田委員長

午前中に住民セッションを行いまして、そのあたりのご報告を申し上げるべきかと思いますが、いずれにしても、いろんな方々からのご報告あるいはご発言をお聞きして、やはり市民団体のいわゆる個人のレベルでのお話というのは何といてもやはりレベルが違うといたしますか、目線あるいは自分の発想の範囲等が全く違う異次元でのお話し合いが行われているということをもまず申し上げておかなければいけないと思います。それはいい悪いではなくて、実際、そういう違いが出てきているということです。

そんな中で、どのような声が多いかといいますと、三遠南信という広域の範囲というものを自分たちの問題意識として持っていくときに、どうやって交流を今まで以上に密度濃くやっていくかということに尽きるのではないかなということでした。そのことによって何かができていく。産業における議論にしても、その後出てくる話ではないかという感触です。

例えば、ものをつくるといった場合にも、基本的には食べるものをつくるという話題がやっぱり多いわけです。信州に行くとりんごをつくっている方々もいるわけですが、ものをつくってそれを加工していくという段階までについては自分たちはいろんなものを持っている、持っているはずだと。だけれども、それをどうやって産業にしているのか。つくったものを流通させていくと



いうところで、どうやって一段二段レベルアップを考えていけるのかというところが一つの大きなポイントになっているように受け取りました。

やはりもっと交流をしていろいろな人と知り合って、あるいは、人だけでなくいろいろな組織あるいはいろいろな仕組み、そういうものをもっとよく知っていく。そのためにはやっぱりまた交流というところに戻っていくというような状況が出ております。それでは、どうすればいいかというところまでは、今後議論を重ねていかなければなかなかできないなというような話し合いであったとご報告申し上げます。

それからもう1点、これは私が個人的に思っていることですが、今、東日本大震災の関係からいろいろな対応策等含めたお話が出てきているということですが、若干福島のほうの人たちとの連携のような話もしているわけです。その中で復興というのを私なりに考えてみますと、地域のコミュニティというものがなくていけない。コミュニティというものがもとにあるからこそできていくというのをつぶさに感じる気がいたしました。

それに対しまして、いかに都市がだめかというのを痛切に感じております。あの震災のときにもちょっと揺れただけで東京はもうがたがたでした。都心の人たちは避難する場所もないということで、本当にどれだけ弱いかということがよくわかったわけではありますが、そういうときに、やはりこの山間部と言われている地域をもっとしっかり大事にしておかないといけないと思います。例えば、今後、東南海地震というのはもう避けられないと言われているわけですので、そういう意味ではもっとその山間の地域に蓄積を持っていくということです。積極的に、意識的に山間の地域に厚みを持たせておかないと、いざというとき

に全然だめになってしまうのではないかなと思いますので、この三遠南信の地域の中でも、その山間の地域の位置づけというものは大きく変えなくてはいけないと思っています。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

少し違う視点になりますが、東海道が横にはずっとつながっているけれども縦にまだ弱いのではないかとされた方がいます。原田さんのことを聞いていてすごくそう思いました。その意味で、三遠南信というのは非常に広がりがあるところですので、そういうことを含めた連携がここから出てくるのではないかと思います。今日の時間の中で第1期の評価と第2期の事業推進についてご意見をいただきましたが、冒頭の基調講演でお話がありましたように、やはり変化のとり方をどうとるかという、これは本多会長や山田会長のほうからも指摘がありましたけれども、今までの成功体験というのはもう通用しないということではないかなということでございます。

それから、安形部長から報告がありました。色々大きなプロジェクトが動いております。それらを具体的にどう進めるかをこれからやっていかななくてはいけないと思います。その中できちんとした連携あるいは今回のテーマの融合、そういうところが必要になってきます。実際に現場でやっていかなるを得ないということではないかと思えます。あと、本多会長から話がありました「やめまいか」ですが、最近「ええじゃないか」という言葉を使っているみたいですし、少し変わってきているのではないかなということだけ添えて終わりたいと思います。